

## 登録される文化財の概要

### 1 文化財の所在地

山口県長門市日置上（同一敷地内）

### 2 所有者

個人

### 3 年代・構造

店舗兼主屋：明治中期／昭和22年頃・平成5年改修

木造2階建、瓦葺、建築面積244㎡

離れ：大正後期／昭和4年頃増築

木造平屋建一部3階建、瓦葺、建築面積171㎡

茶室：大正後期、木造平屋建、瓦葺、建築面積17㎡

内蔵：明治中期、土蔵造2階建、瓦葺、建築面積34㎡

穀物蔵：江戸後期、土蔵造2階建、瓦葺、建築面積27㎡

米蔵：明治中期、土蔵造平屋建、瓦葺、建築面積52㎡

衣装蔵：明治24年、土蔵造2階建、瓦葺、建築面積46㎡

門及び塀：大正後期、門 木造、瓦葺、間口1.6m

塀 木造、瓦葺、総延長36m

### 4 概要

中野家住宅は、長門市の赤間関街道沿いの古市地区の中央部で江戸時代から呉服業を営んできた元商家である。

街道沿いの歴史的景観の核となる店舗兼主屋や、地域のランドマークとなる離れの洋風望楼等、古市地区の景観を形成する要素として欠かせないものであり貴重である。

○ 店舗兼主屋は、2階建切妻造棧瓦葺で通りに南面し、内部の北側は床板を張った居住空間、南側の広い土間は店舗としていた部分で、上部吹抜の周囲に廊下を廻らし陳列棚が並ぶ。

○ 離れは、主屋の北部に位置する賓客用の座敷棟。平屋建棧瓦葺で北西側に外壁を下見板張とした3階建の洋風望楼が建つ。望楼1階の化粧間は扇状に竿縁天井を張る等、意匠を凝らしている。

○ 茶室は、入母屋造棧瓦葺、離れの北東に位置する。南側と東側は障子と雨戸を建て、濡縁を設け、庭に面し開放的なつくりとし、軒先は銅板葺とする。内部は四畳半で北側に床と棚、西側に火灯窓を設ける。

○ 内蔵は、2階建切妻造棧瓦葺の土蔵。主屋の北に位置し東面の戸口より廊下で主屋に接続する。

○ 穀物蔵・米蔵・衣装蔵は、主屋北西側に並び立つ土蔵。中野家住宅は江戸期に大火に見舞われたが、穀物蔵は焼けずに残存したことが伝わる。

○ 門及び塀は、敷地東側に沿って立つ。門は1間1戸の薬医門で、その南側、北側に腰高までの石積みの上に建つ塀が取り付く。

○店舗兼主屋



○離れ



○茶室



○内蔵



○穀物蔵



○米蔵



○衣装蔵



○門及び塀

